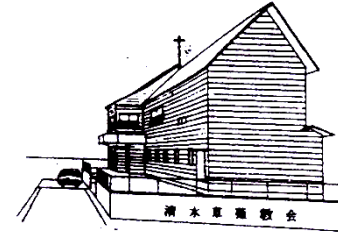


# 週報

2008年 3月 9日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸

《今朝の聖書から》ヨハネ12:13に“ホサナ”という言葉が出てきます。“ダビデの子にホサナ(マタイ21:9、15)”、“ホサナ、主の御名によって来たる者に祝福あれ(マルコ11:9)”などと、この個所です。旧約には出てきません。詩編の118:25“どうぞ、われらをお救いください”というところに、この語のもともとの意味とされる、ヤサアという言葉の変化形が、ホシアナという言葉で出てきます。つまり、もともとは、“お救いください”という意味があったのですが、新約聖書の時代には、発音だけが受け継がれ“栄光あれ、祝福あれ”という意味を持つ言葉に用いられている、と理解できます。この言葉が、人々の気持ちを表しているように思えます。私たちはイエス様の十字架の時を、孤独に考えがちですが、パリサイ派の人々にもどう仕様もできないほどのうねりとして、イエス様に対する信頼は人々の中に広がっていたことも分かります(12:19)。祭りでエルサレムにやってきた人々の中にギリシャ人がいたところから、今朝の聖書ははじまります(異邦人にも福音が述べられたこととなります)。ピリポ、アンデレの弟子を頂点に沢山の人々がイエス様を取り巻いて“群れ”となっていた様子が分かります。“一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはだ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる(24節)”というイエス様の言葉はこの時のものです。麦は地に埋もれますが、発芽します。信じる者の生き方も、光あるうちに信じたなら、発芽に向けた命となるのです。本当に幸福を手に入れた人は、自分の力など及ばない力を頂くために、主のもとに来なければなりません。神の栄光をこのように語られました。それは十字架と復活という発芽を通した、神様の勝利の業を示していました。どんな救い方をされるのか“贖う”ということをもってはつきり述べられたのです。事態がそれほど切迫していない時、私たちは適当に、いろいろの物を嗜むことができます。しかし事柄が深刻になると、自分はどちらの側に立つのかはつきりさせないといけないこととなります。“あなたは信じますか、信じないでいますか(式文：新しい契約の血を)”とみ言葉は今も、この時に集まった人々に対するのと同じように私たちに“どちらでもない”という曖昧な答えを許さないといとしてなげかけられているようです。人々はまだイエス様の“贖い”についてまでは明かされていなかったのでしょうか。しかしこれらの人々が教会の基を築く恵みに預かるのです。